

難聴児の早期発見・早期療育推進のための基本方針作成に関する検討会
第一回検討会 ヒアリング

明晴学園の早期支援

—保護者への支援情報の提供—

2021.3.26

明晴学園 理事／教育相談担当

玉田さとみ

明晴学園の早期支援

1. 日本手話という言葉
2. ろう児への支援（言語と概念）

※別途参考資料3点

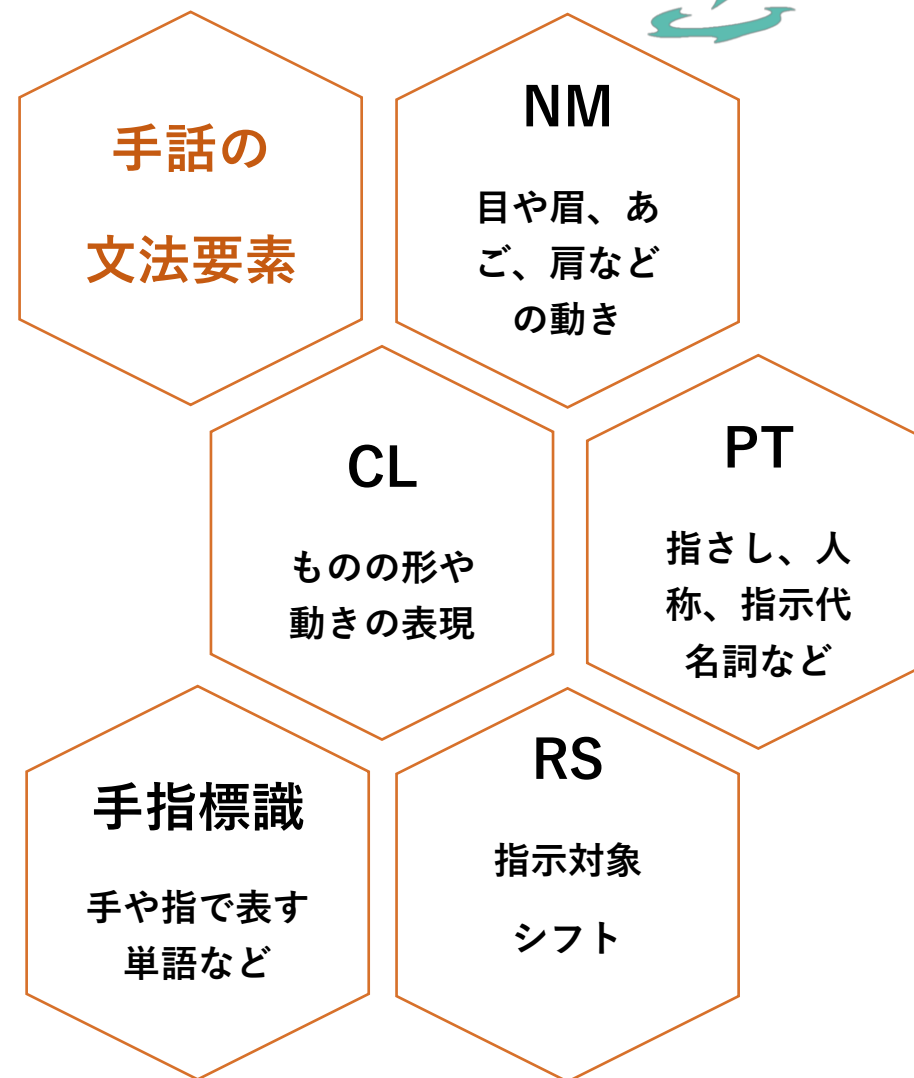
3. 保護者への支援
4. 求める道すじ

1. 日本手話という言語

■ 日本手話は日本語とは異なる文法構造をもつ独自の言語

■ 1878年に開設した京都盲啞院でろう生徒のコミュニティから生まれた自然言語

■ 手指標識、NM、CL、PT、RSなど見てわかる文法要素で構成されている。



1-2. 日本手話の文法要素

手指標識 手や指で表すもの（手話単語）

NM (Non-Manuals) 手指標識は同じでもNMが違ふと意味が変わる

PT (Pointing) 5ヵ月ごろから見られ年齢とともに高度な使い方になる

CL (Classifier) 類別詞 ろう乳児が最も理解しやすい文法

RS (Referential-Shift) ケンカの場合など子育てでよく使う 1歳半以上

※上の赤色の囲みがろう乳児とのコミュニケーションの核になる

2. ろう児への支援（言語発達）



明晴学園の早期支援
児童発達支援事業所 明晴プレスクールめだか

めだかの特徴

- ろう児がわかる
目を使ったコミュニケーション
- 指導者は当事者
ろう者とろう児を手話で育てた保護者
- ろう児の心の発達と子育てを支える
- 「ことば」と「概念」を育てる

「ことば」を育てる
(両親がろう者の家庭)

視線を合わせる文化

視線を合わせることから
コミュニケーションがはじまる



要求 (NM)



生後4～5ヵ月 喃語 (手話の喃語)



生後8ヵ月 幼児語 (赤ちゃんの手話)

※ ろう児の発語は、NM、PT、CL、RSの順で現れる
※ 聴児は名詞、ろう児は動詞から話しはじめる!?

2-2. ろう児への支援（概念形成）



聴児とろう児の情報量の差
（側聞・偶発的な学習）



乳幼児期の療育で大切なことは概念

十分なコミュニケーションと
目的をもった遊びを深めることで概念を育てる

■ ろう児がわかる視覚情報（日本手話の文法）で
0歳から概念を育てることができる

■ ひとつの遊びを数日かけて深めていく
（例）紙：いろいろな紙で遊ぶ
切れる、飛ぶ、丸まる、溶ける、固まる

野菜：模造の畑で野菜を収穫
本物と偽物、重さ、匂い、買い物、かずと数字

※別添資料1、2参照

3. 保護者への支援

早期支援で重要なめだかの**保護者支援**

■家族の心の安定が最優先

「聞こえない子」から「優れた目の子」と視点を変わると**子育てが前向き**になる

■聞こえなくても大丈夫! という情報と知識の提供

当事者から見た『聞こえない』と『聞こえる』/**乳幼児期で大切なこと**／**親子(家族)関係**／
ろうコミュニティ(ろう学校)の必要性／手話という言葉／人工内耳の情報 など

■ろう児とのコミュニケーション方法のサポート

ろう児が安心する接し方(後ろから抱き上げない等)／手話にこだわらない見てわかる方法／
指さしによる方法／表情に注意したコミュニケーションなど ※別添資料3参照

4. 求める道すじ（自治体に望むこと）



早期支援コーディネータの役割

- ① **母親を中心に家族を支える**（母親の心と体のケア、乳児の発達に関わる助言）
- ② 補聴（人工内耳、補聴器）や手話に関する情報提供（STや専門家・施設の紹介など）

早期支援
コーディネータ

身近な存在の
保健師

- ▶ 行政の定期検診や家庭訪問の制度が利用できる
- ▶ 保護者を孤立させない。身近に複数の相談相手が必要
- ▶ 医療以外の情報を届ける（ろう学校, 児発, NPO, **当事者の存在**など）

※診療初期に人工内耳の手術予約日を決められると親は追い立てられる気持ちになる
第三者的立場の早期支援コーディネータの存在が必要

4-2.ろう児・難聴児と家族の道すじ



ろう児・難聴児が抱える様々な問題は、学齢期だけでなく一生続きます。
補聴（医療）だけで、難聴児と家族の問題を解決することはできません。
軽度難聴は問題が軽くなるのではなく、軽度難聴という異なる問題を抱えます。

本当に重要なのは、医療、療育、教育の後の生き方

聴力に関係なく、難聴児の生涯を支えてくれるのは、ろうコミュニティ（仲間）

めざすのは「ろう児がストレスなく自分の力を存分に発揮でき、その力を正しく評価できる社会」

明晴学園では「人工内耳も手話も」の研究をはじめています

ご清聴ありがとうございました

参考文献(論文タイトルのみ仮訳)

- Humphries, T., Kushalnagar, P., Mathur, G., Napoli, D. J., Padden, C., Rathmann, C., & Smith, S. (2014) Bilingualism: A Pearl to Overcome Certain Perils of Cochlear Implants (バイリンガリズム: 人工内耳の危険性を克服するためのすぐれた方策) in *Journal of Medical Speech-Language Pathology* 21(2) 107-125
- Wolbers, P., Holcomb, L. & Bernhardt, K. (2020) Why sign language is vital for all deaf babies, regardless of cochlear implant plans (ろうの赤ちゃんに人工内耳でも手話が不可欠なのはなぜか) in *The Conversation* Published online: August 31, 2020 (明晴学園作成の和訳版あり)
- Caselli, N., Pyers, J., & Lieberman, Amy M. (2021), Deaf Children of Hearing Parents Have Age-Level Vocabulary Growth When Exposed to American Sign Language by 6 Months of Age (聴の両親のもとに生まれても、生後6か月までにASL(アメリカ手話)に接していれば、ろうの子どもは年齢相応の語彙を獲得する) in *The Journal of Pediatrics* Published online: January 18, 2021